

あんす

令和5年1月
熊本保健科学大学
医学検査学科

同窓会だより

令和
4年度

熊本保健科学大学 医学検査学科同窓会 総会

開催日

令和5年 3月26日(日) 13:00～

会場

熊本保健科学大学1号館 1300L講義室

〒861-5598 熊本市北区和泉町325 TEL.096-275-2111

お問合せ

〒861-5598 熊本市北区和泉町325

熊本保健科学大学 医学検査学科同窓会 (総務担当: 野中喜久)

TEL.096-275-2183 E-mail egdousou@kumamoto-hsu.ac.jp

総会参加に
際しての注意

①マスク着用をお願いします ②当日は検温をお願いします

③体調不良の時は参加をご遠慮下さい ④座席を指定します ⑤緊急連絡先をおあずかりします

ブランド力の強化に向けて!

新年、明けましておめでとうございます。コロナ禍に加え、ロシアのウクライナ侵攻が暮らしにも影響を及ぼしていますが、同窓生の皆様にはご健勝にお過ごしのことと存じます。

本学は今年度で創立63周年となりましたが、昨年3月までに大学院等を含めた全卒業生/修了生が1万人を超えました。私の専門が病理学ということもあり、これまでに医学検査学科出身の多くの同窓生の方々と交流を持つことが出来ました。そして、最近では学外の様々な会合やイベントにおいて、本学卒業の方々や学生諸君と出会う機会も多く、熊本保健科学大学のプレゼンスが広がっていると感じています。

これからの大学に必要なことの一つが「ブランド力の強化」であり、本学でも入試・広報課を中心として発信力の強化に努めております。その一環として、一昨年からはテレビ熊本(TKU)にお願いして特集番組を制作しており、昨年11月26日には『地域を支える次世代の医療プロフェッショナルに ～熊本保健科学大学で描く未来～』と題する特集番組が放送されました。ご覧になった方も多いと思います。また、これまで月1回の発行であったニュースレターを毎週の発行とし、『熊本保健科学大学週刊NEWSLETTER』としてホットなニュースを学内外に発信しています。本学ホームページからも閲覧可能で

るので、是非、ご覧下さい。「熊本保健科学大学ニュースレター」と入力して検索して頂くと簡単にアクセス出来ます。

昨年は、オンサイトでのオープンキャンパスを久しぶりに開催することが出来、3回の参加者数はのべ1,700人を超え、コロナ禍前と同程度の参加人数を確保出来ました。また初めての取り組みとして、小中学生を対象とした『からだのふしぎ探検in熊本保健科学大学』を夏休みに開催し、地域と人数を限定しての実施でしたが大好評でした。この様な子供たちを対象とした取り組みについても、積極的に実施していきたいと思っております。

来年度から第Ⅱ期の中期目標期間(4年間)が始まりますが、地域に根ざした保健医療系大学としてブランド力の強化を図り、本学のプレゼンスを向上させることで受験生の確保に繋げたいと思います。同窓生の皆様のご支援とご協力を宜しくお願い申し上げます。最後になりましたが、医学検査学科同窓会ならびに会員各位の益々のご発展をお祈り申し上げます。



熊本保健科学大学学長
竹屋元裕



ごあいさつ



同窓生の皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。コロナ禍の最中、世界ではロシアによるウクライナへの軍事侵攻や中国の台湾・尖閣問題、北朝鮮のミサイル発射など日本を取り巻く環境は先が見通せない状況です。一方、国内においては、ロシア侵攻に伴う燃料費や原材料費の高騰による物価高、また安倍元総理銃撃事件は想像もつかない出来事でした。このような状況下で、先のサッカーワールドカップでの日本代表チームの活躍は数少ない明るい話題ではなかったでしょうか。

さて、同窓会では例年開催している総会及び講演会開催の時期となりました。今年度もコロナ感染拡大防止のため、令和5年3月26日(日)に総会のみを開催を予定しています。詳細は別途、ご案内をご確認ください。令和5年度は役員及び評議員改選の年で多数の方のご参加をお願いいたします。また、今年の「あんず」でもご案内させていただきましたが、

同窓会設立60周年記念事業開催及び記念誌作成について準備を進めており、令和5年度中の開催を予定しています。詳細については適時ホームページなどでお知らせします。皆様のご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。



同窓会の運営について、皆様のご意見・ご要望などございましたら事務局まで連絡いただくと幸いです。今後ともご支援・ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、同窓生の皆様方の益々のご健勝とご活躍をお祈りいたします。

熊本保健科学大学医学検査学科 同窓会会長
原田 精一

レストラン「ピリア」が営業中!



昨年、レストランがリニューアルしました。アリーナとして使用していた施設を2階建てに改修し、約700名分の座席が設置されました。但し、現在は感染対策として約半数の座席しか使用出来ません。

メニューは、日替わりとお魚ランチ、カレー、うどんやそばの麺類、かつ丼などの丼ものなど20種類ほどあります。値段も500円以内で食べることが出来ます。お昼時間になると券売機前と配膳台前には行列が出来、学生の賑やかなおしゃべりが聞こえてきます。

レストランの名前には、崎元前理事長が提案した熊保大4綱領の一つである‘仁愛’をギリシャ語にした『ピリア』が選ばれました。仁愛とは「情け深い心で人を思いやること」という意味ですが、空腹の中、大行列でイライラすることなく、他者を思いやりながら食事をせねばとこの記事を書きながら気持ちを新たにしています。

ちなみに、現在は感染対策のため学外者の利用に制限があります。コロナウイルス感染が落ち着いて自由に利用が出来るようになったらぜひ一度お越しください。



卒業後のこれまでを振り返るとともに新型コロナウイルスによるパンデミックを経験し、それぞれの立場で、今考えていることをお話していただきました。

1 卒業後は違う道で 検査と研究、

青：卒業研究を化血研でさせていただく機会があり、それから研究に興味を持ちました。だけど、当時は短大卒から就職や大学院など研究職への道は無く、唯一、研究に携われて給料を貰える熊大第二内科（現血液内科）のテクニシャンの求人を見て、「道が開かれた」と思ったのを覚えています。すぐに応募したけど、（研究というものを知らずに）ただ実験を齧っただけだったので、入ってからすごく苦労しました。

森：私自身、大病や死にそうな大怪我を経験し、医療に従事したい気持ちがあり臨床検査の道を志しました。特に救急医療や地域医療の現場で役に立てたらと思っていました。就職先で微生物検査を担当し、感染症検査に携わる楽しみや厳しさを経験しています。

青：もし検査技師として働いていたら、レアな経験が一つのモチベーションの維持になるかと思いますが、何かそんな経験はありますか？

森：レアな症例は多く経験しています。毎回、アドレナリンが出っぱなしってくらいです。感染症においては患者、病原体、医師、看護師、検査技師の5つの生物が関わるものであり複雑です。かなり迅速な対応が必要とされる感染症や生活様式が変わってきている現代だからこそ起こる感染症もあります。検査技師は「Technologist」と記されますが、そこでどのように治療を行うか戦略を考え、検査結果を報告していくため、私的には「Strategist」ではないかと感じています。

青：治療を意識しながら検査を進めてるということで、聴いているとすごく検査の奥深さが伝わってきます。いつかその言葉を学生にも話してみようと思います。

森：研究は面白いの？

青：実験で仮説を証明して、上手くいけばすごく嬉しいし、でもそんなに上手いかなことが多いかな（私の場合）。たまに上手いったりするからなかなか止められないんだろうね。

2 ロックダウンを経験して コロナ禍の検査室と

青：アメリカでは2020年3月中旬にロックダウンが始まり、食品や生活必需品などの必要最低限の買い物、軽い運動以外の外出が禁止されました。当時、子供が小学生と中学生だったのですが、直ぐにchrome bookとWi-Fiルーターの貸し出しがあってズームでの授業がスタートしました。昼過ぎで授業が終わると家族で散歩に出かけたりしていましたが、研究所もクローズなので毎日家で論文読んだりデータをまとめたり、それとずっと家族一緒に、計ったような規則正しい時間が、ロックダウンが解除される6月中頃まで続きました。なかなか無い貴重な体験だったと思います。

森：2019年12月武漢で感染者が報告され、パンデミックとなり、近い未来に日本にも拡大してくると思っていた。国内でも感染拡大してきた頃には、数社より検査試薬が販売され、遺伝子検査などを行うようになりましたが、世界的なマスクなどの個人防護具が不足となり、様々な工夫をしてスタッフなどの感染防御を行っていました。大量検体に対応できる検査体制は構築できましたが、検査スタッフが罹患しないように一番気をつけました。今までに経験したことの無いほどの忙しさであったのは間違いありません。体力勝負だ!としっかり食事をとり、他のスタッフよりRed Bullを差入れて頂いていたので痩せることはありませんでした（笑）。

青：アメリカでの拡大、1日に1,000~2,000人の死者数を見ていて、通勤など日本のほうが人が密集することが多いと思い、心配していましたが、世界の中で感染者、死亡者数は少なかったようだけど。

森：確かに日本の感染者、死亡者数は少ないほうですが、保険制度の違いが大きいと思います。冬場のインフルエンザ流行期のマスク着用の文化も関与しているでしょう。また、日本人は心配性の方も多いのではないのでしょうか？真冬に窓を全開でお風呂に入る方の話を聞いたことがあります。

青：確かにアメリカは医療費が高いから、減多なことでは病院に行かないし、ECMOみたいな治療をアメリカでしたら一体いくら請求されるかそっちの方が心配になるね。

3 自分たちが向かう方向性

青：折角、検査のことを勉強したので、これまでの研究経験を活かして、いつかは臨床検査分野での研究が出来ればと密かに思っていました。現場の検査技師と何かコラボレーションをしていきたいと思っていて、そこにうまく大学院を活用できれば、研究を通して本学の大学院と現場が繋がり、学生を含む人の交流も活発になるのではないかと考えています。まだ話して無かったけど、これから一緒に「研究」が出来ればと考えています。

森：感染症で亡くなる方が一人でも減らせればと思っています。患者一人一人が自分にとって大事な人であつたらと考えると何が最善であるのか解ってくると思います。病原体も生きていくために薬剤耐性化などの様々な変化をしているし、従来の培養検査では検出不可能な病原体が原因となることが多くなり、近年では分子疫学的検査が必要となってきています。培養検査は時間を要し、待てない症例も存在するためmultiplexな分子疫学的検査が必要だと感じています。原因となる病原体を追求していくという点では青木先生の研究と通ずるものがあると感じられます。

青：そういうところで何か協力できることがある気がするね。大学のリソースを活用して何か発信出来れば面白いと思うよ。卒後24年経ってから、再び合流することになりそうだね。もし興味がある人が居れば、是非一緒にやっていきたいと思っています。

二人から在学生へメッセージ

これまでの先輩方が築いてきた歴史は非常に大きいものがあり、是非良い意味でその歴史を利用して卒業後は僕らのように在校生に協力してもらえればと思います。



12月某日、熊本保健科学大学の教員室にて対談中に、偶然、大学に来られていた27期生の平田忠臣さん(フクダ電子大分営業所所長)と再会しました。学生時は「数々の伝説を残した」良き先輩で、学園祭も一緒に楽しみました。(右から、平田さん、森口さん、青木)

森口 美琴

1998年：銀杏学園短期大学 卒業(28期)
1998年：熊本市食肉衛生検査所
1999年：日本赤十字社 熊本健康管理センター
1999年：熊本労災病院 中央検査部

青木 学

1998年：銀杏学園短期大学 卒業(28期)
1998-2000年：熊本大学第二内科
2001-2002年：熊本大学大学院
自然科学研究科修士課程
2002-2004年：三菱化学BCL 研究開発部
2004-2017年：熊本保健科学大学助教、講師
2015-2022年：米国国立衛生研究所(NCI, NIH)
Visiting Fellow, Staff Scientist
2022年-：熊本保健科学大学 教授



令和5・6年度

同窓会評議員および監事

卒業期	氏名
医1	沢渡 勝己
医2	大塚 邦子
医3	上田 和夫
医3	藤井 勝
医4	斎藤 誠一
医5	高森 祐二
医6	古堅 宗吉
医7	広瀬 英治
医8	村上 徹治
医9	江藤 博三
銀1	佐々木 妙子
銀1	高野 真
銀2	宮崎 洋一
銀2	中川 敬一
銀3	桑原 英雄
銀3	松村 健一
銀4	三村 孝俊
銀4	瀧口 巖
銀4	北野 正文
銀5	山田 しょう子
銀5	山本 典夫
銀6	丸山 博史
銀6	榎原 真二
銀6	寺本 弘二
銀7	古賀 和美
銀7	中嶋 秀之
銀8	荒木 克巳
銀8	内村 由紀
銀9	奥羽 孝文
銀9	岡本 恭子
銀10	原田 精一
銀10	田口 博規
銀11	正木 孝幸
銀11	木場 博幸
銀12	淵田 智美
銀12	永井 由美
銀13	斉藤 義治
銀13	松本 恵美子
銀14	福田 浩喜
銀14	島本 浩二
銀15	松本 珠美
銀15	斉藤 美智代
銀15	平尾 真一

卒業期	氏名
銀16	岡崎 孝憲
銀16	田中 信次
銀17	江淵 加良子
銀17	古閑 公治
銀17	亀山 広喜
銀18	松永 由紀子
銀18	中田 智子
銀19	小山 美佐子
銀19	山口 直美
銀19	川上 伊知郎
銀20	黒田 真文
銀20	逢坂 珠美
銀21	溝上 美江
銀21	田上 さやか
銀22	正代 清光
銀22	田上 圭二
銀23	野中 喜久
銀23	山口 勝利
銀24	多田隈 理佐子
銀24	河野 美保
銀25	鬼塚 東洋
銀25	北村 由加
銀26	紫垣 まどか
銀27	岩山 義雄
銀27	木下 博登
銀27	平田 忠臣
銀28	山口 香織
銀28	森口 美琴
銀29	緒方 智美
銀29	崎田 紫織
銀29	山内 露子
銀30	大町 佳子
銀30	菅原 綾子
銀31	緒方 恵
銀31	堤 義隆
銀32	櫻本 泰志
銀32	吉野 孝一
銀33	奥村 彰太
銀33	藤山 隆二
銀34	河上 麗子
銀34	西村 京子
銀35	中島 真由美
銀35	佐々木 道太郎

卒業期	氏名
熊保大1	石橋 圭輔
熊保大1	竹下 博士
熊保大1	原 浩平
熊保大1	登尾 一平
大2	工藤 康太
大2	吉田 雅弥
大3	迫 宣之
大3	山本 隆敏
大3	坂本 亜里紗
大4	田島 滋織
大4	井手 由紀子
大4	吉田 未帆
大5	堀田 佳代
大5	山下 祐
大6	赤星 彰一
大6	古田 沙織
大6	長野 まゆ
大6	嶋村 啓太
大7	古賀 尚子
大7	宮本 真志
大7	岩代 翔吾
大7	田中 翔
大8	氏原 康裕
大8	松永 拓也
大9	坂本 淳
大10	龍 正樹
大10	材津 桃果
大10	大原 康平
大11	木下 裕也
大11	中村 直樹
大11	古家 茉由夏
大11	堀 麻美
大12	黒川 滝
大12	野田 祥平
大13	宮田 莉奈
大13	甲斐 美紗樹
大13	田口 麻衣
大14	福岡 星夜
大14	渡邊 浩幸
大15	末次 希帆
大15	右田 岬
大16	久多見 健太
大16	本田 奨
大16	中村 百音

監事

山田 しょう子

寺本 弘二

同窓会創立60周年記念事業寄附金のお礼

時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。
平素から同窓会活動へのご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

この度は、熊本保健科学大学医学検査学科同窓会創立60周年記念募金に際し、多大なご援助を賜り、心より御礼申し上げます。

お寄せいただいた寄附金は記念事業の成功と母校発展のために大切に活用させていただきます。

今後とも変わらぬご厚誼、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

令和4年10月末日現在

募金件数 285件

募金総額 1,082,329円

追伸

ご寄附いただきました金額の領収書につきましては、誠に恐れ入りますがお手元の郵便振替払込請求書兼受領証に替えさせていただきますので、何卒よろしくお祈いします。

熊本保健科学大学医学検査学科同窓会 会長

原田 精一

事務局よりお知らせ

「あんず」は、いかがだったでしょうか?大学の施設紹介ではレストランを取り上げてみました。現在はコロナの影響で利用制限がありますが、今後は少しずつ解除されてくると思いますので、ぜひ、ご利用下さい!

また卒業生の対談コーナーでは28期生のお二方をお願いしました。卒業から25年近く経過し、学生時代の懐かしい思い出を振り返るとともにお互いの近況報告で盛り上がっていました。今後のご活躍を祈念しております。

あんずに関するご意見また要望等がございましたら事務局までご連絡下さい。現在、同窓会では名簿調査を実施しておりますが、連絡先が不明な方が多数いらっしゃいます。お手数ですが、住所や姓名、勤務先等が変わられた場合はご連絡をお願いします。

会計資料(会計部案)

●収入の部 2021年度会計(決算案) 2021.4.1~2022.3.31

費目	2021年度予算	2021年度決算	備考
繰越金	5,500,000	5,987,197	2020年度より
会費	1,000,000	1,050,000	2021年度 入学生(105名)
寄付金	300,000	0	
協賛費	200,000	0	
講演会収入	250,000	0	
雑収入	4,000	0	
	7,254,000	7,037,197	

●支出の部

会誌発行費	200,000	160,930	
名簿発行費	50,000	0	
講演会費	700,000	0	
会議費	200,000	34,750	常任・評議員会
支部活動費	210,000	0	
印刷費	30,000	0	
通信費	160,000	49,339	
事務消耗品費	30,000	0	
交通費	210,000	0	
雑費	30,000	0	
連合拠出金	50,000	0	
予備費	50,000	0	
	1,920,000	245,019	

7,037,197(収入合計)-245,019(支出合計)=6,792,178 2021年度残高

●収入の部 2022年度会計(中間報告) 2022.4.1~2022.11.30

費目	2022年度予算	2022年度中間報告	備考
繰越金	6,500,000	6,792,178	2021年度より
会費	1,000,000	1,200,000	2022年度 入学生(120名)
寄付金	150,000	0	
協賛費	100,000	0	
講演会収入	250,000	0	
雑収入	4,000	0	
	8,004,000	7,992,178	

●支出の部

会誌発行費	200,000	0	
名簿発行費	1,500,000	0	
講演会費	700,000	0	
会議費	200,000	17,000	常任・常任・評議員会, 60周年記念事業WG
支部活動費	150,000	0	
印刷費	30,000	0	
通信費	160,000	55,983	評議員会案内
事務消耗品費	30,000	0	
交通費	150,000	0	
雑費	30,000	550	振込手数料(5回分)
連合拠出金	50,000	0	
予備費	50,000	0	
記念事業費	500,000	0	
	3,750,000	73,533	

●収入の部 2023年度会計(予算案) 2023.4.1~2024.3.31

費目	2022年度予算	2023年度予算	備考
繰越金	6,500,000	6,000,000	2022年度より
会費	1,000,000	1,000,000	2023年度 入学生(100名)
寄付金	150,000	0	銀杏学園後援会
協賛費	100,000	0	銀杏学園(大学)
講演会収入	250,000	0	参加費
雑収入	4,000	0	利息等
	8,004,000	7,000,000	

●支出の部

会誌発行費	200,000	180,000	「あんず」Web化
名簿発行費	1,500,000	1,500,000	名簿調査費等(2022年度から継続)
講演会費	700,000	700,000	第45回同窓会
会議費	200,000	200,000	常任・評議員委員会等
支部活動費	150,000	150,000	支部会(沖縄 広島 鹿児島 福岡 関西)
印刷費	30,000	30,000	封筒印刷代等
通信費	160,000	160,000	評議員会案内等
事務消耗品費	30,000	30,000	
交通費	150,000	150,000	支部会(沖縄 広島 鹿児島 福岡 関西)
雑費	30,000	20,000	
連合拠出金	50,000	50,000	同窓会連合 2023年度分
予備費	50,000	50,000	
記念事業費	500,000	1,000,000	60周年記念事業関係(2022年度から継続)
	3,750,000	4,220,000	

連絡先

〒861-5598 熊本市北区和泉町 325 熊本保健科学大学
医学検査学科同窓会事務局 野中喜久
TEL. 096-275-2183 FAX. 096-245-3172
e-mail egdousou@kumamoto-hsu.ac.jp

